

# ダイコンの品種紹介と栽培の注意点

昨年は猛暑に見舞われ、ダイコンの品質、収量とも低下し、大変な年になりました。本年の栽培にあたっては、品種の特性を良く理解し、畑の準備を進め、良品多収を目指して頂ければ幸いです。

## 一、春ダイコン『喜太一』

喜太一は春ダイコンとして極晩抽性で品質が優れ、萎黄病などの病害にも強く、作りやすい品種です。トンネルマルチ、マルチべたがけ、マルチ、露地栽培に幅広く播種できます。栽培の注意点として、寒のもどりがある作型では、播種時からのべたがけ被覆が効果的であり、遅播きの作型では、地温が上がりにくい黒マルチ栽培、ホウ素を中心とした微量要素の施用が効果的です。肥料は若干多めが基本になりますが、播種が遅くなるに従い控えめにします。ただし、畑によっては肥料切れの注意が必要なので、生育状態をみて追肥を行ってください。

## 二、夏ダイコン『改良夏元太』

改良夏元太は夏元太のそり性を改良した新品種で、高温期に問

題になる黒芯、赤芯などの生理障害に強く、軟腐病と萎黄病にも強い

ため、収量性が安定して高いのが特長です。晩抽性であるため6月途中からの播種ができます。品質を上げる作り方がポイントになります。特に高温期の作型では肥料は少なめとし、地温が上がりにくい露地栽培とシルバーマルチなどの栽培が向きます。作土の深い畑を選定したほうが根形が整います。栽培日数は六〇〜六五日が目安となります。畑の過乾燥時には降雨を待つか、散水後播種して下さい。遅播きは太りや、根長とも出にくくなりますので、追肥やマルチ栽培が有効です。

## 三、夏ダイコン『晩抽涼太』

晩抽涼太は青首がきれいで、品質良好な品種です。晩抽性なので、六月中の喜太一の後に播く作型から栽培できます。葉が大きいのが特長で、根の肥大はやや遅く、少し待つてから収穫適期になります。栽培日数は六〇〜六五日が目

安となります。青首品種の中では生理障害には強いほうで萎黄病にも強いほうです。栽培の注意点としては、根長がやや短くなること

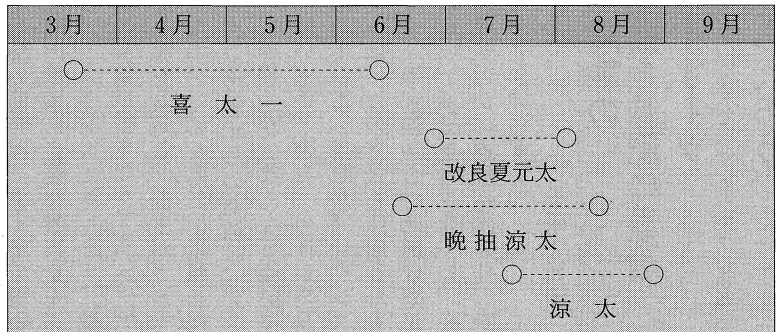
がありませので、マルチ栽培で根長を出すようにして下さい。多肥は軟腐病の原因になりますのでやや控えめにして下さい。

## 四、秋ダイコン『涼太』

秋播きも可能ですが、太りが遅くなりますので、普通の秋ダイコンより生育日数がかかります。状況に応じて次に紹介する涼太に切り替えて下さい。

涼太は青首総太りで肌がきれいで品質が非常に良いのが特長です。洗いがりが良く市場性は抜群です。栽培の注意点は、抽苔は一般の秋ダイコン並みなので、無理な早播きは避けて下さい。太りが早いので高温期は肥料を極力控えて軟腐病の発生を抑えます。生理障害には比較的強い品種ですが、ホウ素を中心とした微量要素を与えておくとう安心です。生育日数は五五〜六〇日が目安です。遅播きでは栽培日数に応じて追肥を与え、良品を生産して頂き、強い霜が降りる前には収穫を終えて下さい。萎黄病激発地帯には向きませんで播種を控えてください。

各品種の播種期 (東北平坦地標準)



(千研 松井)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 菊地 庸  
 本社 062-8650 札幌市豊平区美園二条一丁目  
 TEL (011) 831-1161  
 東北事業部  
 024-0004 北上市村崎野  
 一四地割一七四一  
 TEL (019) 766-1122  
 FAX (019) 771-3307